

NTT労組自治体議員団統一調査 「新型コロナウイルスと デジタル化に関するアンケート」

情報労連・NTT労組自治体議員団

ここでは2022年3～6月に情報労連・NTT労組自治体議員団から発表された「新型コロナウイルスとデジタル化に関するアンケート」の一部を抜粋して紹介する。なお、本調査は自記入式のアンケートで実施し、情報労連・NTT労組自治体議員団に所属する議員84名（首長を除く）が、選出選挙区（市区町村）在住等の住民各50名（計4,200名）から回答を得ることを目標に取り組み、期日までに有効回収された3,184名の回答を集計した。有効回収率は75.8%である。

目次

調査結果の要約 → **本号掲載分**

序章 調査実施の概要

第1章 現在の生活について

1. 生活満足度
2. 新型コロナウイルスに関する不安
3. 医療機関での受診状況
4. 新型コロナウイルス感染症拡大以後の変化

第2章 コロナ禍と子育て・介護について

1. 子育てへの影響
2. 介護への影響

第3章 コロナ禍と働き方について

1. 新型コロナウイルス感染症拡大以前の
就労状況

2. 世帯総収入の変化

3. 仕事や収入に関する不安

4. コロナ禍による働き方の変化

第4章 コロナ禍と学生生活について

1. 現在の通学状況
2. 学生生活への影響
3. 今後の授業形式への希望

第5章 ICTの利用とデジタル化の進展について

1. 情報通信機器の保有状況
2. 情報収集のために利用している媒体
3. 生活サービスの利用状況
4. デジタル化をすすめるべきこと
5. デジタル化のメリット
6. デジタル化への不安
7. 医療・教育のオンライン化への不安

調査結果の要約

本調査は、情報労連・NTT 労組自治体議員団に所属する議員 84 名（首長を除く）が、選出選挙区（市区町村）在住等の住民各 50 名（計 4,200 名）から回答を得ることを目標に実施し、有効回収が 3,184 件で、有効回収率は 75.8%である。

回答者の性別は、男性が 56.2%、女性が 42.6%、平均年齢は 51.4 歳である。

本人の職業は、会社員（公務員）が 6 割を占めるが、そのうち「フルタイム」（48.0%）が 5 割弱、「パートタイム」（10.6%）が 1 割である。無業では「退職・リタイア」（9.4%）、「主婦・主夫」（8.2%）ともに 1 割弱である。この他、「自営業」（6.3%）「学生」（4.4%）、「会社役員」（3.7%）の順となっている。

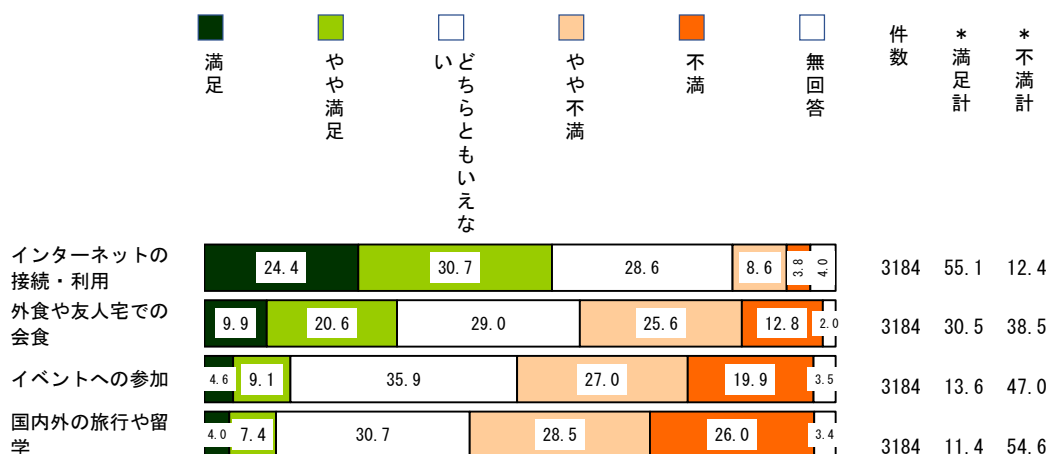
居住地は、「政令市・大都市圏以外の市町村」（33.2%）が 3 分の 1 を占め、＜関東、近畿、中京以外の政令都市圏＞（29.0%）が 3 割、＜関東大都市圏＞（16.4%）と＜近畿大都市圏＞（12.1%）がともに 1 割台、＜中京大都市圏＞（6.3%）が 1 割未満である。

第 1 章 現在の生活について

- 生活満足度について、生活時間に関する＜満足＞の比率は、[家族と過ごす時間]（54.8%）と [休養・くつろぎの時間]（52.8%）、[一人で過ごす時間]（51.7%）で 5 割強、[趣味や娯楽にける時間]（46.9%）と [交際や付き合いにける時間]（37.8%）で 4 割前後を占め、いずれも＜不満＞の比率を上回っている。

生活行動に関する＜満足＞の比率は、[インターネットの接続・利用]（55.1%）で半数を上回る一方、[外食や友人宅での会食]（30.5%）では 3 割、[イベントへの参加]（13.6%）、[国内外の旅行や留学]（11.4%）では 1 割にとどまり、それぞれ＜不満＞を下回っている（第 1 図）。

第 1 図 生活行動への満足度（総計）

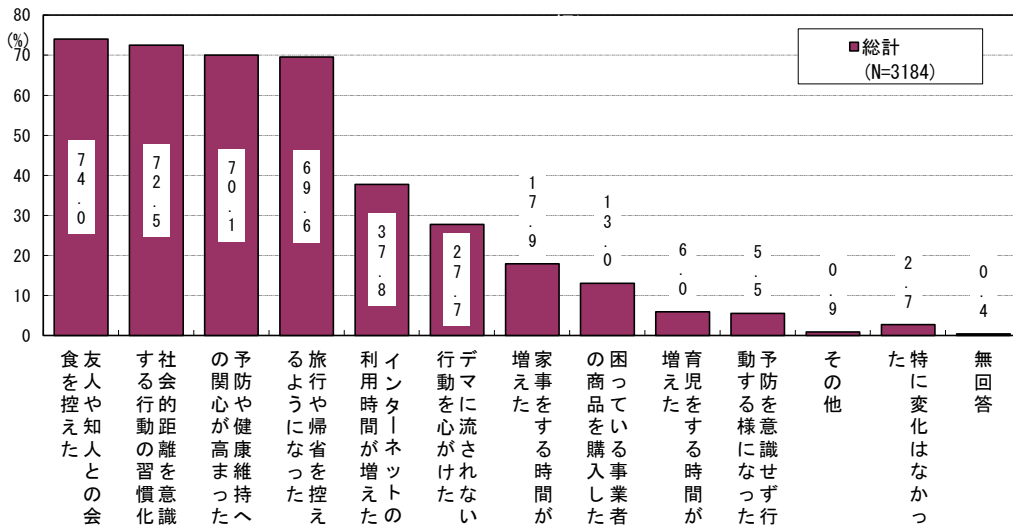


- 新型コロナウイルスに関する不安について、＜不安＞の比率は、[家族の感染による健康状態の悪化]（69.9%）と [自分の感染による健康状態の悪化]（63.3%）で 6 割台、[感染しても適切な治療が受けられない]（54.9%）と [感染が懸念されても適切な検査が受けられない]（51.0%）で 5 割台を占める。
- 医療機関での受診状況について、新型コロナウイルス感染症拡大（2020 年 2 月）以降、「受診を控えたまま過ごした」が 7.3%、「受診を延期したことがある」が 17.9%みられる。

- 新型コロナウイルス感染症拡大以後の変化について、意識や行動の側面をみると、「友人や知人との会食を控えるようになった」(74.0%)、「社会的距離を意識する行動が習慣化した」(72.5%)、「予防や健康維持への関心が高まった」(70.1%)、「旅行や帰省を控えるようになった」(69.6%)が7割前後で上位項目となっている。「インターネットの利用時間が増えた」(37.8%)は4割弱みられる(第2図)。

人間関係の変化については、「新たな出会いが減った」(53.1%)の<そう思う>比率が5割強、「友人や知人との関係に距離ができた」(43.9%)が4割強を占め、それぞれ<そう思わない>を上回っている。

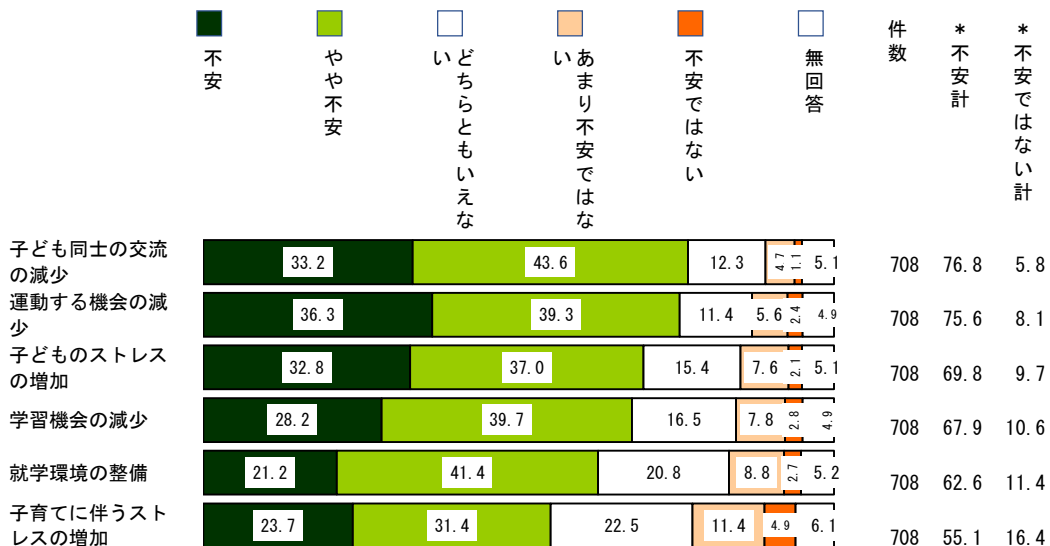
第2図 新型コロナウイルス感染拡大(2020年2月)以後、意識や行動変化の有無(複数選択)



第2章 コロナ禍と子育て・介護について

- 子育てへの影響について、<不安>の割合は、「子ども同士の交流の減少」(76.8%)と「運動する機会の減少」(75.6%)ではそれぞれ4人に3人にのぼり、<不安ではない>は1割に満たない。また、「子どものストレスの増加」(69.8%)や「学習機会の減少」(67.9%)、「就学環境の整備」(62.6%)、「子育てに伴うストレスの増加」(55.1%)でも<不安>は5~7割を占め、<不安ではない>を大きく上回っている(第3図)。

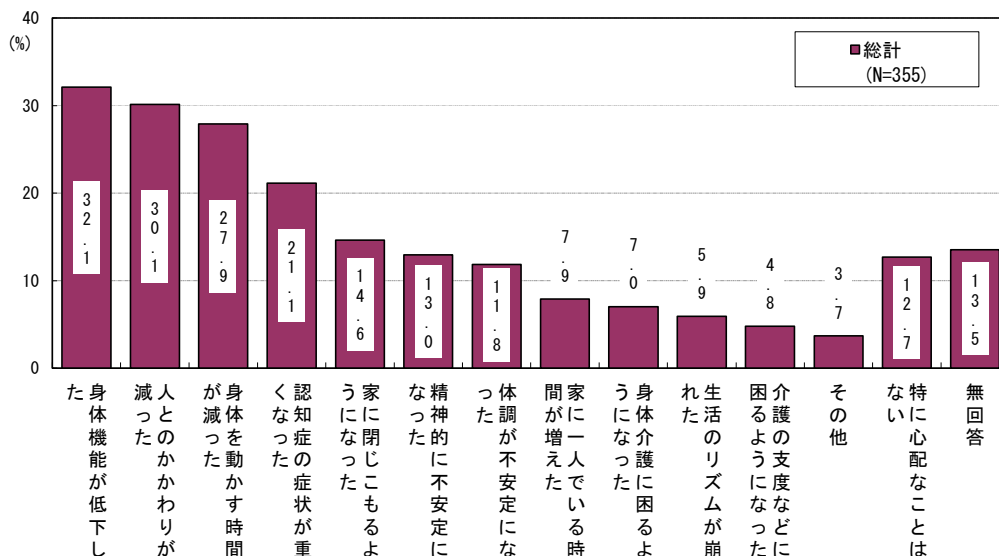
第3図 臨時休校、学級閉鎖、外出自粛等による子育てへの影響についての不安(未就学から中学生までの子どもがいる方、総計)



- 介護への影響のうち、介護関連のサービスや施設、支援の利用の変化について、「利用に変わりはない」が22.5%にとどまり、具体的な変化としては「入所施設での面会ができなくなった」が35.8%で最も多く、それに次いで「入所施設での面会に回数や時間の制限が設けられた」が27.3%などとなっている。

要介護家族についての心配事は、「身体機能が低下した（筋力が落ちた、歩行しにくくなった、転倒しやすくなった等）」（32.1%）が3割強で最も多く、これに「人とのかわりが減った」（30.1%）、「身体を動かす時間が減った」（27.9%）が3割前後、「認知症の症状が重くなった」（21.1%）が2割で続いている（第4図）。

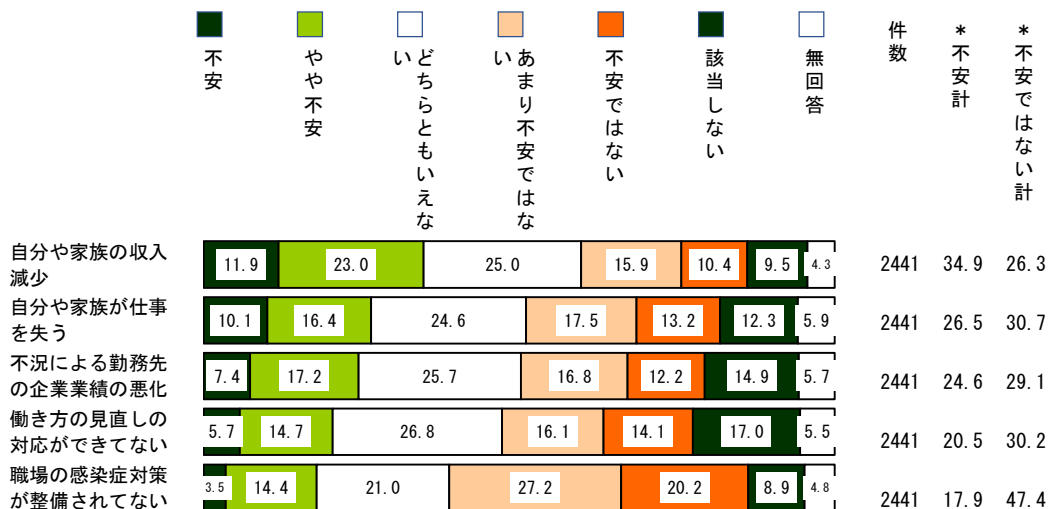
第4図 介護を要する家族について特に心配なこと（要介護家族がいる方・3つ以内選択）



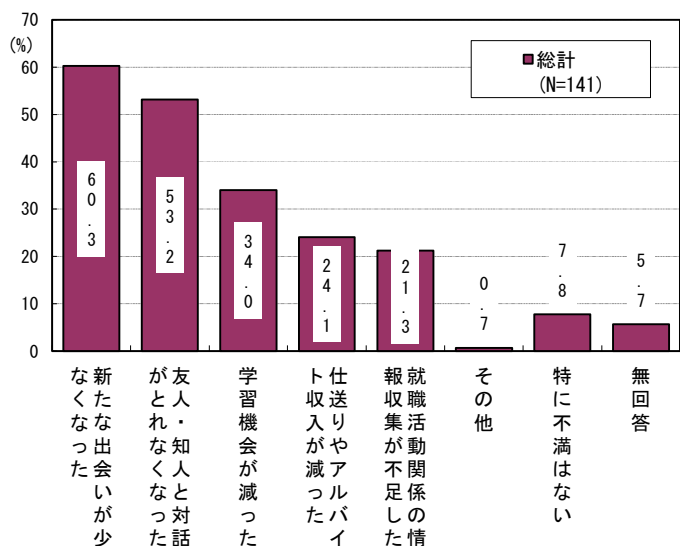
第3章 コロナ禍と働き方について

- 新型コロナウイルス感染症拡大以前の就労状況は、「現在と同じ職」が72.3%と多数を占め、「現在と異なる職」は6.7%である。女性の29歳以下や30代前半といった若年層やパートタイムの場合、「現在と異なる職」が1~2割台と他に比べて多い。
- 世帯総収入の変化について、2019年と比較したとき、この2年間の世帯の総収入は「だいたい同じ程度」が62.1%と多数であるが、<増えた>が5.7%にとどまる一方、<減った>が26.9%と4人に1人を占める。<減った>の比率は、自営業で5割台半ば、パートタイムで4割弱、コロナ禍以前は現在と異なる職に就いていたケースで5~6割と目立つ。
- 仕事や収入に関する不安について、[自分や家族の収入減少]は<不安>（34.9%）が3割台半ばを占め、<不安ではない>（26.3%）を上回っている。[自分や家族が仕事を失う]と[不況による勤務先の企業業績の悪化]、[在宅勤務など働き方の見直しへの対応ができていない]は<不安>が2割台にとどまり、<不安ではない>が3割でやや上回っている。パートタイムと自営業では自分や家族の[収入減少]や[失業]への不安が多くみられる（第5図）。
- コロナ禍による働き方の変化について、「変化はなかった」が25.3%みられるが、具体的な変化としては「オンラインでの会議や打ち合わせが増えた」が32.5%で最も多く、これに「出張や出先での打ち合わせが減った」（28.9%）、「職場の人とのコミュニケーションが減った」（26.5%）が3割弱で続いている。

第5図 仕事や収入への不安（無業あるいは学生以外の方、総計）



第6図 新型コロナウイルスによる学生生活への影響（学生の方・複数選択）



第4章 コロナ禍と学生生活について

- 現在の通学状況は、「週に2日以上通学している」が67.4%で最も多く、「ほとんど通学していない」は7.1%である。
- 学生生活への影響は、「新たな出会いが少なくなった」が60.3%で最も多く、これに「友人・知人とコミュニケーションがとれなくなった」が53.2%と続き、人間関係上の影響が生じたと感じた学生が多数を占めていることがわかる。そのほか、「学習機会が減った」が34.0%、「仕送りやアルバイト収入が減った」が24.1%、「就職活動に関する情報収集や準備が不足した」が21.3%と、学生生活への影響は広範囲にわたる（第6図）。

- 今後の授業形式への希望については、「オンライン形式とオフライン（対面・集合）形式を両方で行う」が53.2%と半数を占めるなか、「ほとんどはオフライン（対面・集合）形式で行う」（26.2%）が「ほとんどはオンライン形式で行う」（14.2%）を上回っている。

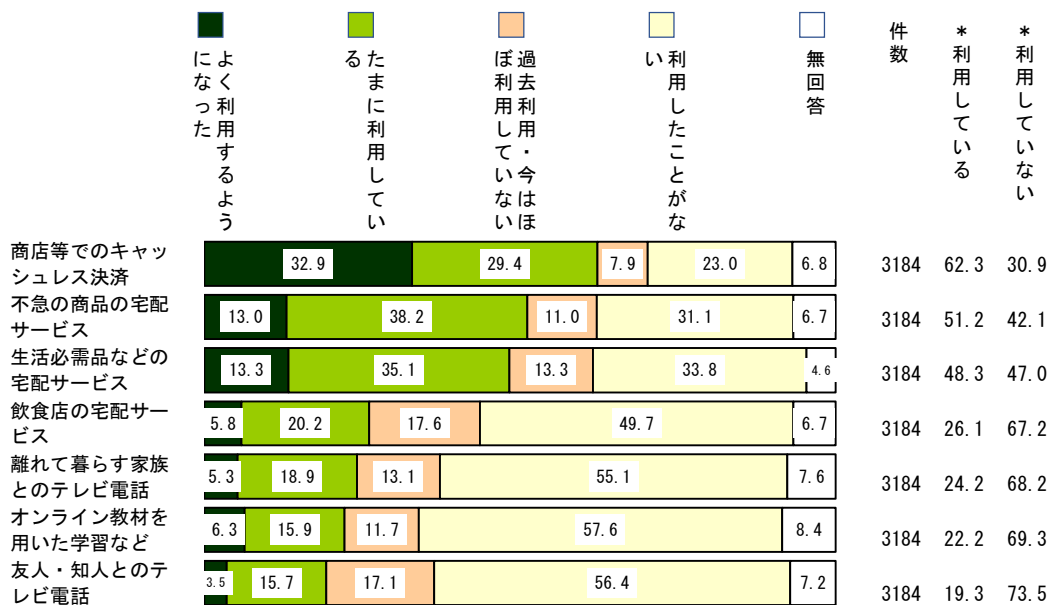
第5章 ICTの利用とデジタル化の進展について

- 情報通信機器の保有状況について、「テレビ」（86.8%）と「スマートフォン」（85.3%）は8割台と多く、以下、「パソコン」（69.5%）が7割、「固定電話」（57.6%）は6割弱、「ラジオ」（43.5%）と「タブレット端末」（38.6%）が4割前後、「家庭用ゲーム機・携帯用ゲーム機」（30.0%）が3割などとなっている。年齢別にみると、「固定電話」は40代後半以上で6～8割台の保有率となっているが、それより若い層では保有率が低く、20代では2割台にとどまっている。また、「家庭用ゲーム機・携帯用ゲーム機」は若い世代で保有率が高く、男性では40代以下で5割前後、女性では30代前半

から40代前半で4~5割台を占めている。

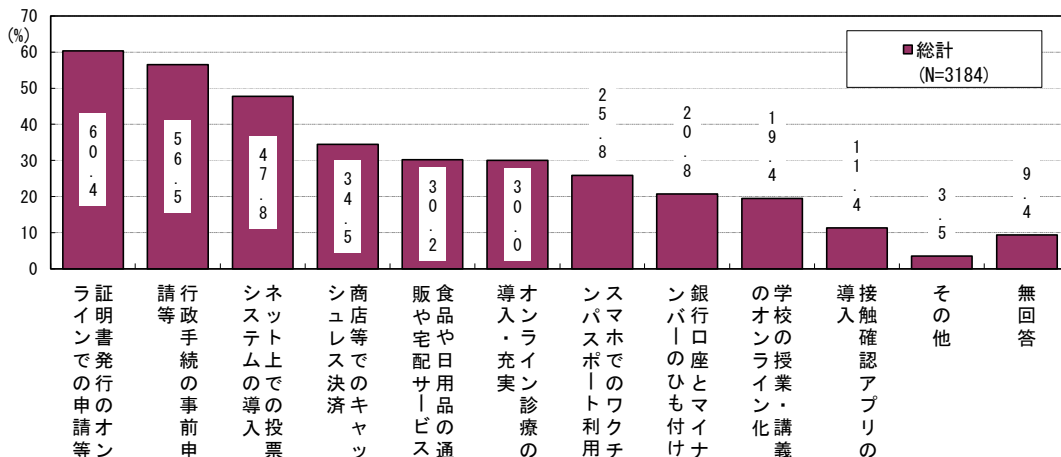
- 情報収集のために利用している媒体は、「テレビ」(75.7%)が7割台、「インターネット上のニュースサイト」(65.6%)が6割台、「新聞(We bサイトを含む)」(57.8%)が5割台となっており、この3項目に回答が集まっている。年齢別にみると、「新聞」は男女とも40代後半以上で多く、特に男性では50代後半から60代前半で4人に3人があげている。他方、「インターネット上のニュースサイト」は男性60代前半以下、女性では50代後半までの年齢層で7~8割の人が選んでいる。各種サイトやSNSについても若い層で比較的良好に使われているが、女性若年層で「その他のSNS」が多いのに対し、男性若年層では「有識者や専門家のサイト・SNS」の比率が女性より多い。
- 生活サービスの利用状況は、「商店等でのキャッシュレス決済」(62.3%)については6割強と多く、「不急の商品の宅配サービス」(51.2%)や「生活必需品などの宅配サービス」(48.3%)も約半数が利用している。他方、「飲食店の宅配サービス」(26.1%)、「離れて暮らす家族とのテレビ電話」(24.2%)、「オンライン教材を用いた学習など」(22.2%)、「友人・知人とのテレビ電話」(19.3%)などの利用率は2割前後にとどまる(第7図)。

第7図 生活サービス利用状況(総計)



- デジタル化をすすめるべきことについて、「証明書発行のオンラインでの申請等」(60.4%)が6割と最も多く、以下、「行政手続の事前申請等」(56.5%)が5割台、「ネット上での投票システム」(47.8%)が4割台、「商店等でのキャッシュレス決済」(34.5%)、「食品や日用品の通販」(30.2%)、「オンライン診療の導入」(30.0%)、「スマートフォンでの利用」(25.8%)、「銀行口座のマイナ

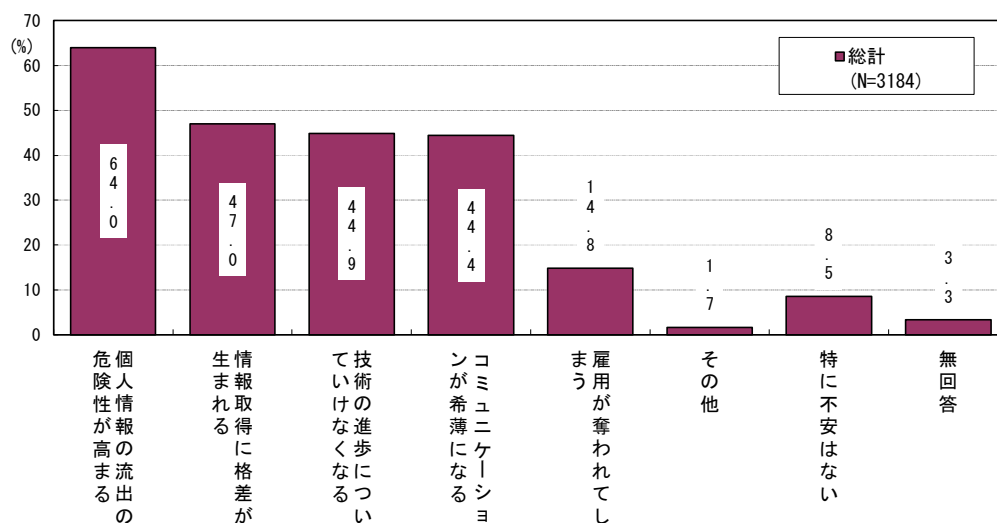
第8図 デジタル化を進めるべきと思うこと(複数選択)



ビス」(30.2%)、「オンライン診療の導入・充実」(30.0%)が3割台などとなっている(第8図)。

- デジタル化のメリットについて、「特にメリットはない」(10.2%)との回答は1割にとどまり、大半の人はデジタル化によるメリットがあると感じており、具体的には「行政手続等の不便さが解消される」(62.0%)が6割と最も多く、「自由に使える時間が増加する」(41.5%)が4割、「生活や暮らしが豊かになる」(34.6%)が3割台半ばなどとなっている。年齢別では、全般的に男性65歳以上、女性60歳以上では各項目とも比率が低く、それより若い層で比率が高くなっている。
- デジタル化への不安について、「特に不安はない」(8.5%)は1割弱で、大半が何らかの不安を感じているが、その内容としては、3人に2人が「個人情報の流出の危険性が高まる」(64.0%)をあげている。そのほか、「情報取得に格差が生まれる」(47.0%)、「技術の進歩についていけなくなる」(44.9%)、「コミュニケーションが希薄になる」(44.4%)がそれぞれ4割台となっている(第9図)。

第9図 デジタル化が進んでいくことへの不安(複数選択)



- 医療・教育のオンライン化への不安について、まず、オンライン診療の導入・充実は、<不安がある>の割合が31.7%、「どちらともいえない」が30.6%、<不安はない>が32.9%となっており、回答は三分されている。

学校の授業・講義のオンライン化への不安をみると、<不安がある>が30.8%、「どちらともいえない」が30.2%、<不安はない>が28.2%と、医療のオンライン化と同様、回答は三分されている。各種の「デジタル化への不安」の有無別にみると、「コミュニケーションが希薄になる」ことへの不安がある層ほど、学校の授業・講義のオンライン化へ<不安がある>が多いことがわかる。